

乳児湿疹 乳児脂漏性湿疹 アトピー性皮膚炎

<乳児湿疹>

生後1か月ころから、顔や頭、耳の後ろから胸や背中に湿疹ができ、水を持ったり、ただれたり、かさぶたのようになることもあります。強いかゆみのために顔をこすりつけたり、寝つきが悪くぐずったりします。

2歳ころまでは再発をくりかえしますが、そのころをすぎると80%くらいは自然に治ります。乳児の湿疹の場合は何を食べたら症状がひどくなるのかも、よく見てお医者さんと相談することが大切です。

<乳児脂漏性湿疹>

生後1~4か月ごろ、顔やまゆ毛などの皮脂腺の多いところについたフケのようなものが、やがて黄色いかさぶたになり、その下の皮膚が赤くなります。

早めにお医者さんで診断を受けましょう。

<アトピー性皮膚炎>

ほおや顔などに湿疹が出てとてもかゆいのが特徴です。特に首筋やひじ、ひざの裏などの皮膚のこすれあう部分がひどくなります。乳児期は湿潤、学童期になると乾燥したものへと変わるなど、年齢で症状が変化します。

この病気がおきるしくみはまだ十分にはわかっていません。乳児の湿疹には乳児湿疹や脂漏性湿疹もあり、すべてがアトピー性皮膚炎とはかぎりません。アトピー性皮膚炎はアレルギー体質の乳児が、家の中のホコリやダニ、カビ、動物の毛、食べ物などのアレルギーを起こす原因となるもの（アレルゲン）を吸ったり食べたり、アレルゲンが肌についたりしておきる一種のアレルギー反応です。このアレルゲンも一つだけではなく何種類も重なっていることがあるので、自己判断せずに必ずお医者さんの指導を受けましょう。

<手当て>

よく洗い、皮膚を清潔にしておきましょう。乾燥がひどい時は洗ったあと保湿剤を塗りましょう。

